



生涯学習とポートフォリオ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山形, 積治 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/10450

巻頭言

生涯学習とポートフォリオ

北海道教育大学生涯学習教育研究センター長 山形 積治

1986年の臨時教育審議会第4次答申で、生涯学習とは「学校教育基盤の上に各人の自発的意識に基づき、必要に応じて、自己に適した手段・方法を自らの責任において自由に選択し、生涯を通じて行われるべきものである」と説明され、そして、生涯教育とは生涯学習を支援する教育体制であるとされている。

一方ポートフォリオ(portfolio)とは、元来は株式用語で株式の売買において利益を守るために各種の資料を集め、それらをしまっておく書類入れのことであるが、その書類そのものもポートフォリオと言う場合もある。それが画家など創作活動を行う者の作品集を示す用語として用いられ、近年、学習者の学習資料集を示す用語としても用いられるようになった。学習面で用いる場合について定義すれば、「ポートフォリオは、自分が自発的に学習した結果やその成果を後々利用出来るように整理し、又は評価(自己評価、他者評価)を加え、蓄積したものである」といえる。

今日の情報氾濫環境の中において、自己の生涯学習に対するポートフォリオをどのように整理保管するかが問題で、一つの講座に出席すると講師は膨大な紙媒体による資料を用意してくれるのが常である。これをファイルして自宅に保管するとなると膨大な資料の山が出来る。後々、何かの役に立ちそうに思い、保管はするものの2~3年を経て、見返してみるとそれほど必要とは思われないが、整理したものは捨てるに捨てきれず、「筆筒の肥やし」ならず「書斎の肥やし」になってしまうことが多い。このことを見越して、思い切って捨ててしまう勇気も必要かも知れないが、学習意欲が高ければ、高い者ほどこの勇気が出てこない。

ありきたりの発想かも知れないが、電子媒体によってポートフォリオを管理するシステムが欲しい。保管のスケールメリット、検索の迅速化、更にネットを用いれば世界に存在する関連データとのリンク可能などのメリットも大きい。紙媒体で提供された資料は、スキャナーで取り込み、録音されえた音声はテキストと音声で再生でき、動画も取り込めるシステムが理想である。

一生に亘る生涯学習ポートフォリオを管理するためには膨大な記憶容量が必要であると思われるが、現在のハード技術で十分可能である。しかしこれを一括管理する効率的なソフトがまだ無い。各種のソフトを組み合わせれば部分利用すれば可能であるが、煩雑になり初心者には無理である。私は、40年にならんとする研究生活の中で、自宅の一部屋は資料で埋まり、書斎もそろそろ危なくなっている。しかし、何時でも資料が取り出せるという環境は、確かに自信につながる。これらがコンピュータの中に一括格納されポートフォリオとして利用できる環境が整えば、家族からの苦情も減るだろうし、生涯学習ポートフォリオの夢のツールとなる。